

大構造改革の焦点はどこにあるか第4号(2001年10月24日)

第4回 ブラックホールから脱出への道

その1 何故原因不明の失速状態に陥ってブラックホールに吸いこまれるのか

<目次>

1. 日本とアメリカで異なる資本市場経済活動の軌道・・・植物と動物の違い

- (1)日本 土地ベース同心軸旋回型の植物循環軌道
- (2)アメリカ 宇宙空間・外渦拡大、動物行動型の循環軌道
- (3)失速原因の異なる日本とアメリカ

2. 空を飛ぶ鳥のメカニズムを持つアメリカ型資本主義市場経済システムの特徴

・・・物・金一体付加価値作りとロケット制御型機能

- (1)動き回することを大前提とした「公益軸」「エンジン」「付加価値追求」「燃料供給」「軌道制御」システムから成り立つ鳥の世界の社会構造
- (2)外渦+軌道を確保するためには欠かせない基本制御機能・・・ルール 10b - 5

3. ブラックホールに吸いこまれる日本の植物型市場メカニズムの弱点

- (1)資本市場経済競争から脱落するリスク挑戦・売り・殺し・動物型強制決済の出来ない植物型社会構造
- (2)付加価値作りをしない財政・金融セクターの自己膨張・・・失速を招いた物づくりだけの片肺飛行
- (3)金融バブルと金融資産の腐敗を招いた金融セクターの証券市場への無原則接近・・・水割り酒を作った証券信用規制システムの欠落
- (4)国民経済システム全体を守る市場経済制御のための基本法(ルール 10b - 5)の欠落・・・猛獣に喰い殺される植物国家
- (5)自己改革を妨げる多数決飛ばし容認、サラ金依存病から抜け出せない日本

4. 逆流から正流への道・・・動物生命活力の復活が先決

5. デフレスパイラルを加速する内渦型の証券、金融システムのイメージ図(日本)

日本が大構造改革不況の中でもがき苦しんでいる最中にととうアメリカのマナー収奪型資本主義原理教のシンボルとも言える世界貿易センタービルが崩壊し世界中の経済システ

ム全体の軸組みがゆらぎはじめた。

そして、この世界経済同時収縮の嵐の中で日本は出口もよく見えないまま自らの構造改革を進めなければならないことになってきた。

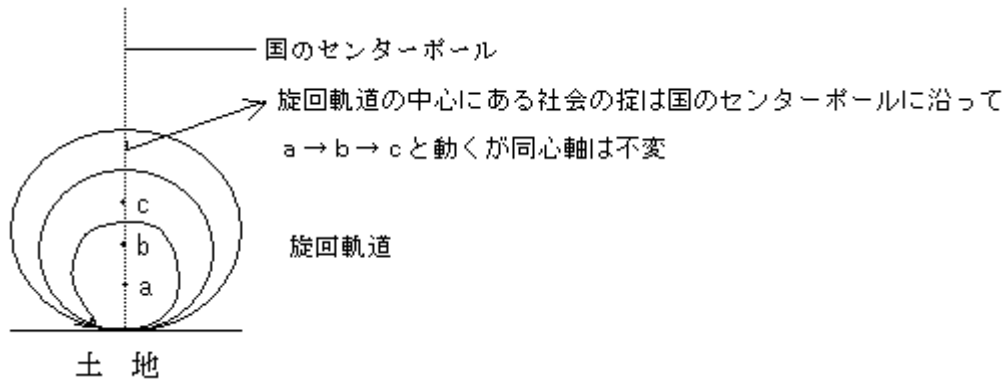
このまま放っておけば日本の経済システムは新しい国家目標が見出せないまま市場経済システムのブラックホールに吸いこまれたまま脱出できなくなる心配も出てきた。

そのためには、今一度あらためてブラックホールにはまりこんでいる原因をインフラメカニズムの構造面から検討し脱出への道を探ってみることにしたい。

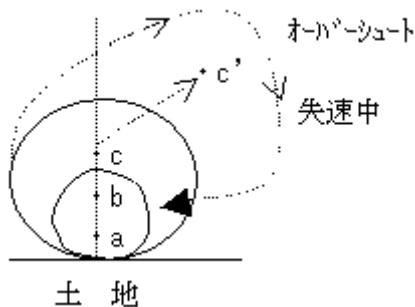
1. 日本とアメリカで異なる資本市場経済活動の軌道・・・植物と動物の違い

(1) 日本・・・土地ベース同心軸旋回型の植物循環軌道

・基本軌道・・・守られた領土と国のセンターポールを軸とする天・自然・お上を中心の掟に従って旋回しながら拡大する軌道

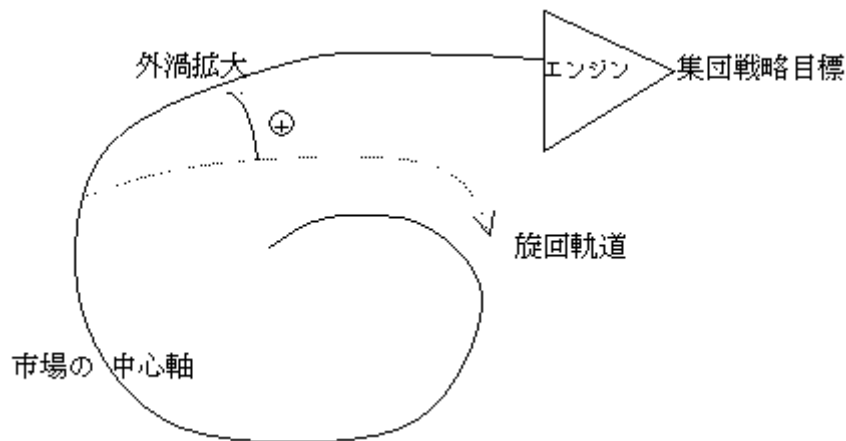


・国際化・市場経済化の刺激によって失速してしまった軌道・・・国際化市場経済によって軸がcからc'へとぶれ今までのセンターポールを中心軸とする軌道から外れてオーバーシュートし失速し迷走中の現在の日本の軌道

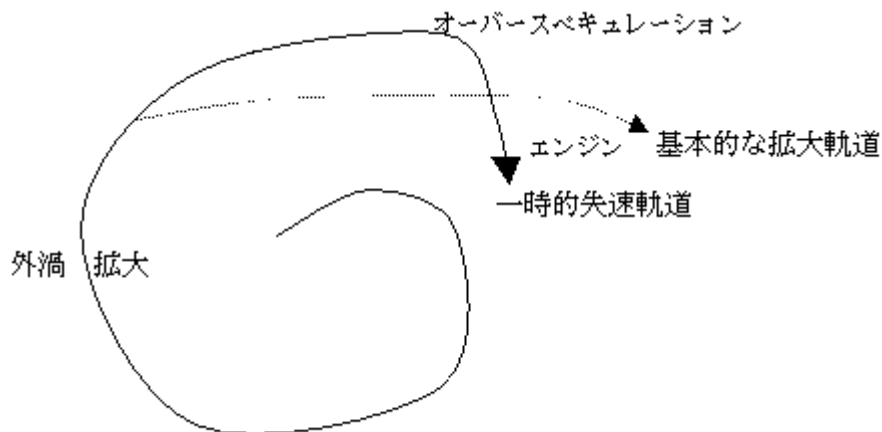


(2)アメリカ・・・宇宙空間・外渦拡大・動物行動型循環軌道

・基本軌道・・・動物集団としての戦略目標に向かって移動する市場の軸を中心とする外渦拡大型の軌道



・欲ばりすぎて一時的失速をおこしつつある現在のアメリカの軌道



(3)失速原因の異なる日本とアメリカ・・・鳥の真似をして失速した日本と飛びすぎて失速したアメリカ

こうして日本とアメリカの市場経済の軌道を描いてみるとその経済活動のベースとなる軌道軸も又活動のメカニズムも決定的に異なっていることが分ってくる。この内渦と外渦を惹きおこす原因は何なのであろうか。

日本では守られた土地をベースにして人を中心とする固定した基本軸を中心に経済のメカニズムが作られ、その同心軸を中心にくるくる旋回しながら経済が運営されている。いわば天と自然の恵みによって貯えられる植物の根をベースに生きる植物型のメカニズムである。

一方のアメリカの場合、無限の宇宙を対象に参加者全員で作りに上げた動物活動型の市場

経済の軸を中心に新しい付加価値・・・獲物（商品・収益）を求めて飛びまわる動物型のメカニズムであることが分ってくる。

こうしてみると、現在同じようにゆきづまって悩んでいるように見えながら日本とアメリカとは、その悩みを生み出している原因は植物（受け身型・日本）と（仕掛け型・米）の構造によって基本的に異なっているのである。

それは、日本では本来飛び立つことの出来ない土地をベースにした植物が動物の真似をして葉を繋らせ天を目指そうとして失速し枝が折れ、幹だけでなく根まで痛んでしまって植物の循環が妨げられその狂いに悩んでいるのに対して、一方のアメリカの場合、飛べる技とメカニズムを独占しすぎてその活動領域が広がりすぎたために獲物がとれなくなって失速し動物社会の循環構造に狂いを生じて悩んでいることにある。

この社会構造の違いは数百年、数千年にもわたる民族の歴史と遺伝子の違いから発生している分だけ簡単には融合できないほど大きなものなのである。

2．空を飛ぶ鳥のメカニズムを持つアメリカ型資本主義市場経済システムの特色・・・物・金一体付加価値作りとロケット制御型機能

(1)動きまわることを大前提とした移動型公益軸、エンジン、付加価値追求、燃料供給、軌道制御システムを持つ鳥の世界の社会構造

アメリカ型の資本主義市場経済システムはヨーロッパにも日本にもない特異なメカニズムを持っている。それはリスクマネーという特別の「燃料」を使って仮需要を生み出す中で新しい収益チャンスを得るために「商品」「証券」というツール(エンジン)を創り出し、無限の宇宙に翔くことの出来る技術と軌道制御機能を持った鳥型のメカニズムであると言える。

(皆んなで飛ぶことの出来るロケット型の市場メカニズムを支える基本構造)

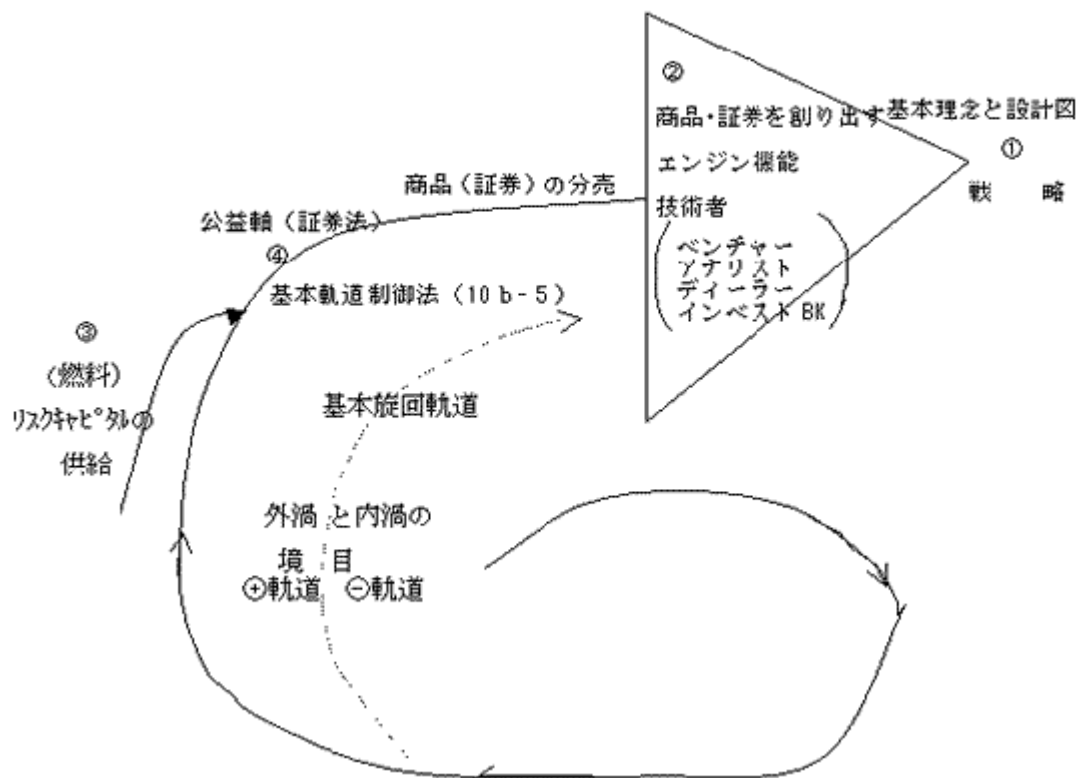
<1>無限の宇宙へ翔くロケットを打上げるために必要な基本理念とそれを実現するための基本設計図を持っていること・・・自由、独立・競争の建国理念から生まれた公益軸、市民契約・投資契約等を通じた全参加者の合意、人・物・金・市場一体の資本市場メカニズムの確立

<2>そのロケットの打ち上げに必要なエンジンと商品創造・収穫機能を備えていること・・・推進・制御技術の開発・・・アナリスト・ディーラー・ベンチャー・インベストバンク機能・・・

<3>燃料供給機能を備えていること…スペキュレーションエネルギーを供給するリスクキャピタルの持続的供給システム

<4>戦略と軌道コントロール機能を備えていること…ルール 10 b -5、SEC、FED、NASA センター…軌道制御グリップ機能

(ロケット型市場メカニズムのイメージ図…アメリカ)



2) 外渦型軌道確保に欠かせない基本制御機能ルール 10 b - 5

ロケットの軌道が外渦に+に拡大するか内渦型に-に収縮するのは、まず付加価値を高めるためのエンジン推進機能と持続的な燃料供給機能が十分に備っているかが基本条件となる。

しかし、問題はだれがどのような方法で自らの位置を確かめ推進力と重力のバランスをとって自らの姿勢を制御し失速することなく未知の空間を飛ぶ飛行技術を編み出すか否かにかかっている。

そのために欠かせないのが参加者全体でそれぞれの私益をこえて操縦者に生死を託して戦略目的を達成するための公益目的についての合意と、それを実現するための掟とメカニズムの確立である。

そしてその掟として創り上げられたのがアメリカだけにある特別の証券市場規制法であり、その心臓にあたるルールが 1934 年証券取引所法第 10 条 b 項 - 5 通称テンビーファイブと言われているルールである。

(10 b - 5 ルールとは)

アメリカでは大恐慌の経験によって「異質者それぞれの持つ活力」を引き出すためには、その本物の付加価値を評価し投資循環を可能にする基本的な制御メカニズムを持たなければ、異質者それぞれの私益によってメカニズム全体が破壊され失速し国家胴元そのものが喰われてしまうことを知って参加者全体の生命爆発力を上回る力を持った基本制御機能を確立したのである。

それはアメリカ市場規制法の心臓と言われる 1934 年証券取引所法第 10 条 b 項 5 (通称テンビーファイブと言われる) ルールが中心となっている。

このルールは、いわば原子力発電所の制御機能にも似て一国の命運を賭けた経済国防機能とも言えるほど強烈な掟としての役割を果たしている。そしてメカニズムの心臓の部分にあたる「公益及び投資家保護」に必要な「公正概念」を確立し参加者全員に強制しているところにこの掟の特色があるのである。

具体的には人工心臓の機能を妨げるような「詐欺的行為」「相場操縦的行為」などの不正取引の排除からはじまって、完全決済システム、信用規制、市場規制などのルールを作って燃料とエンジンを制御するなど一般社会における社会秩序規制とは比較できないほど厳しい特別のルールを作っているのである。こうした血流、品質チェック、爆発力調整機能があってこそ人工心臓型の経済システムがうまく機能するように工夫されているのである。

アメリカではこの 10 b - 5 ルールの執行を SEC に委ね、信用規制を司る FRB とともに全市場経済参加者で作り上げた自主規制ルール、民事救済システム等を活用し投資循環機能を高め市場取引の暴発を制御し、国の経済システムそのものが破壊されないように工夫しながら国家戦略を実現しているのである。

3 . ブラックホールに吸いこまれる日本の植物型市場メカニズムの弱点・・・失速を招いた物経済だけの片肺飛行と市場制御機能の欠落・・・

こうしたアメリカ型のメカニズムの特色・・・全員で動きまわるのに必要な公益理念の確立、物・金一体付加価値作りと制御機能を備えた人工心臓・ロケット機能からみると、日本の資本市場経済のメカニズムはあまりにも異色であり植物的であり、穏やかである。

このあまりにも異った社会構造のままアメリカ型のマーケットメカニズムと本格的に結合しようとしているところに問題があるのである。

それは数百年も昔に、地動説に目ざめた動物集団に襲われた農耕社会に起きた混乱の再現ともいえるほど大きなギャップなのである。

手足だけでは十分に国際化が進んでいたように見えながら日本の本丸だけは農耕民族の遺伝子で固められた古いメカニズムで守られてきただけに、その基本構造が崩れはじめた時の混乱は予想以上に大きいのである。その混乱を加速している原因としては次のような要因が考えられる。

(1)リスク挑戦・売り・殺し・かけひき・だまし・動物型強制決済の出来ない植物型社会構造

守られた土地の上で長寿を全うするために皆んなで仲良く平和に暮らしたい農耕民族の持つ村のバザールのメカニズムと、生きるためには無限宇宙を飛びまわり獲物を求めるためお互いに競い合い完全決済を正義とする市場契約発想を持った狩猟民族の持つメカニズムとの違いはあまりにも大きすぎるのである。その一番大きな違いは「売り・殺し・だまし、完全決済を受け入れられない農民」と売り・殺し、完全決済を「生きるための正義とする狩猟民族」の違いである。

同じ市場(マーケット)という言葉で表現しながら村の物々交換の場であるバザールと、リスクのある未知の資本市場へ進出し予想収益を競い合う弱肉強食、適者生存を争う場の違いである。つまり日本の市場経済システムには、自ら発電する力を持った動物型の資本市場競争システムが欠けているのである。

(2)付加価値作りをしない財政・金融センターの自己膨張と腐敗・・・失速を招いた物作りだけの片肺飛行の経済

アメリカ型市場経済の心臓部門では物・金一体となって付加価値を追究し人工心臓機能を創り上げるため、金融セクターにおいても動物の知恵・目・五感を武器とするアナリスト・ディーラー・ローヤー・ベンチャー・インベストメントバンク機能などの金融・投資技術者集団が付加価値追究のための先導役として活躍し集団全体の経済効率を高めている。

一方の日本では、物作りセクターだけに付加価値作り責任があるものとされ、金融セクターは財政などの公的セクターの一員として計画経済に合わせた資金の蓄積・供給・公平分配機能に重点がおかれてきた。そのため他国の領域にまで入りこんで収益チャンスを拡げる投資技術力を育成していなかったことが経済の成熟期を迎えて金融資産の腐敗と国民経済全体の出力を低下させてしまった大きな原因と考えられるのである。

つまり備蓄米を貯めこむ機能はあっても国全体としてこの備蓄米を「たねもみ」に転換し投資に生かす本物の資本市場機能を持つことなく本丸だけが大きくなってしまったのである。

(3)金融バブルと金融資産の腐敗を招いた金融セクターの証券市場への無原則接近・・・水割り酒を作った証券信用規則の欠落

日本の証券・金融・資本市場機能がゆきづまっている原因は、前述したように

- ・ リスク挑戦・売り・殺し・強制決済の出来ない農耕民族の持つ村のバザール型の社会システムのまま動物型のザ・マーケットに参入したこと

- ・ 金融センターが自ら付加価値を創り出す投資機能を持たないままザ・マーケットに参入し備蓄米だけを増やして腐らせてしまったこと

に加えて

- ・ このバザール交換型の証券市場システムと投資機能を持たない備蓄・分配型の金融システムが十分な制御機能を持たない中で無原則に結合することの恐ろしさを知らなかったことにあるのである。

アメリカ大恐慌の発生原因はこの金融エネルギーの証券市場への無原則接近によって発生した証券・金融臨界事故だったのである。

具体的には銀行が株式を保有したことと、株式担保金融を通じて株式買付資金がスパイラル的に無限に供給されたことによって発生した余剰金融エネルギーが創り出した一時的価格変動益を経済成長エネルギーと誤認したことにある。

そして異常膨張したあと逆に空売り投機エネルギーによって過度の経済収縮を惹きおこし国民経済全体のシステムが破壊され大恐慌が発生したのである。

この 30 年間、日本ではこの大きな教訓を忘れ、市場経済の原発臨界事故とも言える金融と証券の無原則結合が放置されてしまったのである。さらに恐ろしいことには土地資産までもがこの金融・証券・市場臨界事故にまきこまれてしまったのである。

そして、本来 SEC と中央銀行の制御下におかれるべき資産・証券信用規制機能が殆ど働かないまま、株式・担保金融規制は限られた株式の信用取引制度のみに適用され、銀行による株式保有が容認されてきただけでなく一般資産担保金融・一般貸株規制機能が放置されてきたのである。その結果、仮需給エネルギーが付加価値を創り出す資本市場に投入されることなく資産・流通市場金融に流れ金融・資産バブルを惹き起こし腐敗した金融資産を積み上げてきてしまったのである。

そして一転して大構造改革移行期には規制のない一般貸株による売り投機が放置され金融・資産・経済全般にわたるデフレスパイラルを加速する大きな原因となっているのである。

(4)国民経済システム全体を守る市場経済制御のための基本法（10b-5 ルール）の欠落・・・猛獣に喰い殺される植物国家

日本の資本市場を停滞させているもう一つの大きな原因はエンジン機能の欠陥だけにあるだけでなく、さらにそのエンジンの暴発を制御するために必要な証券・金融・資本市場を律する基本ルール的重要性が理解されないまま、事実上放置されていることにある。

アメリカでは爆発力の激しいロケット型エンジンを制御するためには、その激しい爆発力を上回る力を持った強烈な制御機能を持つことによってマーケットの暴発によって主権者である国家胴元が喰われないための努力と工夫を重ねてきている。

その規制ルールが前述した 1934 年証券取引所法 10 条 b 項の 5（テンビーファイブ）ルールであり、日本では想像できないほど激しい市場経済国防・警察機能の役目を果たしているのである。

日本では、一般社会の秩序維持を図る目的で制定されている行政管理システムのレベルで激しい爆発力を伴う市場経済システムの制御が行なわれてきているのが現状にある。

こうしてアメリカのような市場経済制御法も SEC・FRB のような特別の制御機関も訓練された市場経済警察技術者（弁護士・会計士など）を持たなかったことが金融大バブルを惹き起こす一因となっただけでなく、その後始末の段階においても証券、金融市場規制機能の欠落によって今なお大きな混乱を拡大しつつあるのである。

こうした状況の中で大構造改革に伴う基本的メカニズムとルールの転換を求められている現在の日本では、在来型のルールも新しいルールも実質的には機能しない、いわば市場経済無政府状態に陥っているのである。

長銀ハイジャック、カシ担保条項、借株空売り、相場操縦行為問題など日本の富を収奪する行為が公然と行なわれていながらこうした現実を国家の危機として受け止める気力も対応する意欲も法的技術力も喪失しつつあるのである。

(5)自己改革を妨げる多数決飛ばし容認、サラ金依存病から抜け出せない日本

日本の資本市場を停滞させている大きな原因はエンジン機能の欠陥だけにあるだけでなく、前述したようにさらにそのエンジンの暴発を制御するために必要な証券・金融・資本市場を律する基本ルールの必要性が理解されないまま、事実上放置されていることにある。

・財政・金融セクターは自ら安全な本丸の中でリスク挑戦・売り・殺し・動物型強制決済を避け、付加価値追究意欲と投資技術も磨くことなく自己膨張し、無節操な証券信用の結合による資産の嵩上げに頼って巨大な資産信用バブルを発生させてしまったのである。

・そしてそのバブルを制御するために必要な基本メカニズムも市場の掬も持たないまま内外の強者・悪者によって国富の収奪が進み、中心軸を失った日本の市場経済は一気に迷走・収縮をはじめとうとう実物経済までをも道づれにデフレスパイラルの渦の中に巻き込まれることになりつつある。

・こうした国家非常事態の中で日本は多数決できめた飛ばし手法で時間を稼ぎながら脱出への道を模索している間にとうとう何時の間にかサラ金依存症にかかってしまって自らの力でこの難局をはね返す気力を失いかけはじめているところに問題があるのである。

4．逆流から正流への道・・・動物生命活力の復活が先決

土地と人と金と市場システムを形だけ結びつけて作りあげた日本の金融資産備蓄米依存型の経済システムは、収益力を伴わない資産を嵩上げして作った幻の評価益が消えて事実上崩壊してしまった。

一方、市場経済メカニズムの利点を活用して世界中の収益を先どりしようとしてきたアメリカ型のマネー依存収益追求型市場経済システムは新しい収益が得られなくなってゆきづまってしまった。

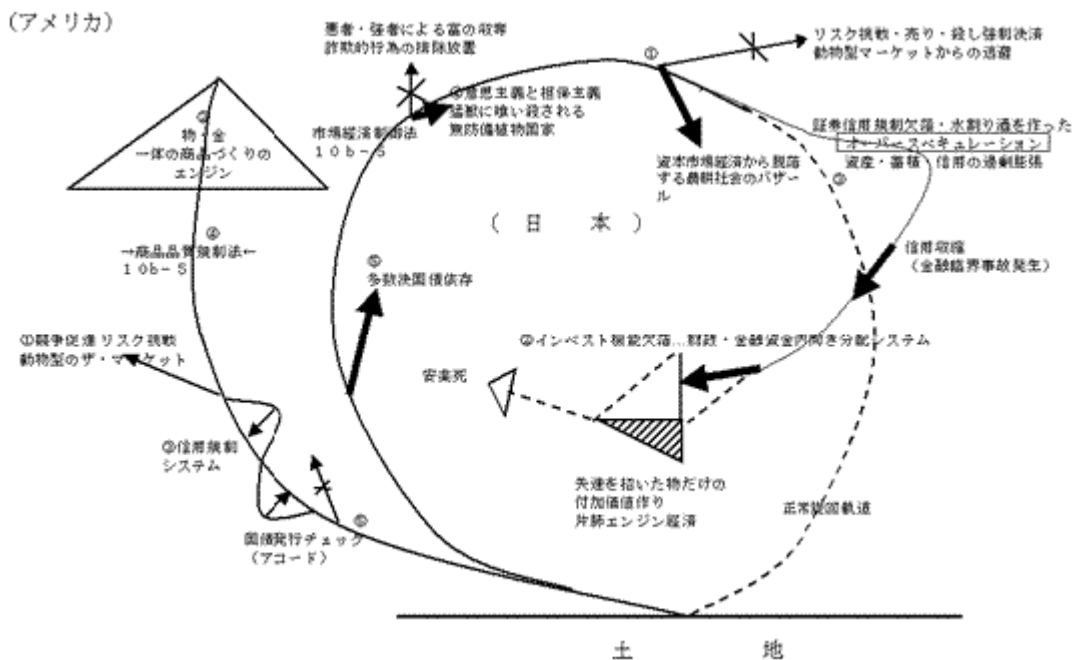
世界が大きな転換期を迎えている中で、悩んでいるのは日本だけではない。世界中の人々が不安定なメカニズムの中で新しい道を求めてもがきはじめた。日本も今はまりこんでいるブラックホールから抜け出して新しい道を模索しなければならない時を迎えている。

果たして次にやってくる大きな波はどんな波なのであろうか。

しかし、その前に求められているのは、まず自分の力で立ち上がる動物的自立心を回復させることにあるのではないだろうか。

動物的生命活力を失った者は世界の渦の中に入って活動することは出来ないのである。

5. ブラックホールに吸いこまれる日本の財政金融証券市場メカニズムのイメージ図



次回のテーマ... ブラックホール脱出への手がかり